

気象観測モニター

展示場の4階、気象コーナーの展示のひとつに、モニターが縦に2台並んだ展示があります。ここでは、科学館上空の空の様子や、近畿地方周辺の雨の様子をリアルタイムで表示しています。

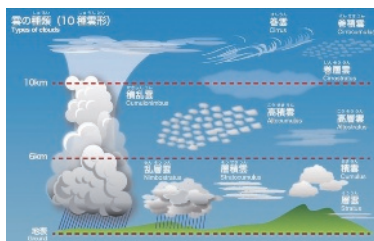
科学館の屋上では、気温や気圧、空の様子などを観測しています。上のモニターでは、気温や気圧がどんな変化をしているのか、どんな雲が出ているのか、屋上で観測している結果を見ることができます。低気圧や、特に台風が近づいてくるときは、気圧がぐんぐん下がる様子もわかります。また、雲は出ている高さや形によって、大きく10種類に分類されます(10種雲形)。見えている雲は何雲でしょうか？雲を観察するときは、外へ出て実際に空を見るのがオススメです。

下のモニターには、気象レーダーがとらえた雨の様子を表示しています。気象レーダーは、半径数百kmの広範囲にわたる降水の位置や強さをリアルタイムで観測することができ、今ここで、どれくらいの範囲で、どれくらいの強さの雨が降っているのかわかります。夏のように局地的に激しい雨が降る時と、梅雨のように広い範囲で雨が降る時とでは、雲の変化などにも違いがあります。

モニターの下では、季節ごとの特徴的な天気図を紹介しています。天気図は各地の観測データをまとめたもので、天気図を見ると大気の状態や天気の変化を知ることができます。晴れや雨などの天気や、どんな風が吹くか、気温、気圧、雲…などの変化には理由があって、全てつながっています。なぜこんな天気になるのか、なぜこんな変化をするのか考えながら天気予報を見たり空を見上げると、新しい発見があるかもしれません。この展示が、そんなきっかけになれば嬉しいです。



展示場4階「気象観測モニター」



10種雲形(展示解説パネルより)

西岡 里織(科学館学芸員)